



社団法人日本建築家協会
関東甲信越支部 長野地域会

NAGANO-KEN CLUB

JIA 長野県クラブ

<http://www4.ocn.ne.jp/~jia-naga/>
jia-naga@jeans.ocn.ne.jp

2012
9.28

Vol.95

長野県クラブの活動から信州建築へのアプローチ ————— 甘利享一



夏のセミナー

夏のセミナーにて「川上から川下へ 地域材を考える」のテーマをもとに、パネルディスカッションが去る7月28日に松本 崖の湯 茜宿にて開催されました。信州の木を利用して、信州の木造建築に生かす。地産地消の考え方で生産者と消費者の距離感をなくし対面することで両者のコミュニケーションがはかられ、里と山の循環性を構築することが信州の山を守り、地域に育った木により建築を造ることで、自然、気候になじみ、くるいの少ない構成となり、風土になじんだ建築を造ることの可能性が大きくなる。

信州の山は、日本の中でも特に自然のおりなす四季の季節感がすばらしく、世界にはない光景だと思う。この美しい信州の山々を守る為にも、山を荒らさず里山を育てていく事が大変重要だと思う。

今回、川上会長が打ち出した地域材により新たな信州の建築文化を創造する先駆者として、長野県クラブのメンバーが木造住宅を県産材で造るという活動は意義のある事だと思う。

それに向かって長野県クラブが一丸となり努力することはすばらしい事だと思う。そんな事業を通じて一般の人々の為に役立ち、社会から必要とされる団体又は個人でなければならない。我々に建築の設計を依頼してくれる人は、一般的に経済的に豊かな人が多く、大半の人は建築家には依頼はせず、プレハブメーカーの展示住宅に足を運ぶ。一般消費者にも受け入れてもらうには、県産材を利用したローコスト住宅を提案しなければ、受け入れてもらえないだろう。一般消費者にとって、里山が視覚的にも家を造るというコスト面においても、身近な存在である必要性が大切だと思う。一般消費者にとっても役立つ仕事も両立していくべき必要があると感じる。それには、長野県で活動する建築家とし

て個の力を高めていくことが大切であると考える。団体スポーツにおきかえれば、チームワークの良いことは当然強い力を発揮できるが、個のプレーもレベルを上げ互いに刺激しあい、個を変える事によりさらにチームプレーを高めていくことが「要」であると思う。いきなり社会を変えようと大上段にかまえると、何をしていいのか見てこないけれど、自分を革質していくことから始めていくと何かが見えてくるよう思う。1本のろうそくを隣の人に灯すことによりその輪が広がっていき、やがて世を灯す明りに変わっていく。

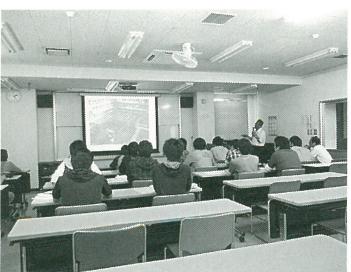
個を高めるには、クライアントの夢を実現させていく使命感に応えられることが必要と思う。それには我々がクライアントと共に夢を見なければ、楽しくなければ、感動がなければ、何も見てこないだろう。予算がない、敷地条件が悪い、あらゆる条件が悪いなかでそれを現実のものとしていくには、現在の社会情勢の中では厳しいものがあるのも現実です。しかし、我々が個を変え社会を変えていくには、想像力と情熱をもって建築活動と向かい合わなければなりません。そうしなければ、社会から必要とされず、一般消費者から遠ざかっていってしまうのではないでしょうか。県産材をただ使えば良いということではなく、そこに我々の知恵を絞り込んで、信州の木による新しい建築文化に息吹を吹き込み、信州の風土を創造していく意気込みを伝えなければならないと思う。



エコハウスセミナー・飯田



まち並ウォッチング・上田



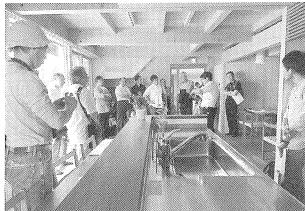
上田情報

エコハウスセミナーに参加して

小宮山 吉登

十年ほど前、「一年後には 環境 が必ずビジネスのキーワードになる」とある方からお話を伺いました。「ほんとかな」と半信半疑で聞いていましたが、今や「環境・ECO」は身近な生活にすっかり定着の気配です。省光熱費・節水をうたう電化製品・給湯器、インバータ制御等の技術進歩は目を見張るものがあります。燃料電池、電気自動車等これからの進化に少なからず期待をしてしまいます。

今回見学した三つの建物には、太陽光を調整する木製格子扉、太鼓貼りの断熱障子、蓄熱体としての土間のある空間等々、そうしたハイテク技術とは一味二味も違う、どこか懐かしく似たような体験が身体感覚に残るECOが、現代の技術が付加された形でちりばめられており、感嘆の思いで見学させて頂き、興味深くお話を伺いました。



まち並ウォッチング 上田

福島 透

今回のまち並ウォッチングは上田市を中心に養蚕で栄えた20世紀初頭の建物を視察しました。見学した建物は製糸業が全盛期を迎えた19世紀中期から昭和恐慌を迎えるまでの繁榮著しい時代に建てられたものです。同時にこの繁栄の影響で西洋建築が花開いた時期でもあります。この時代を反映してか見学した建物の中には西洋建築風でありながら、どこか和風的なスペース?が入った建物も見受けられ、実に興味深く見学出来ました。今回見学した主な建物は「笠原工業の蔵蔵」、「信州大学繊維学部の建築群」そして「上田蚕種株」などであり、どの施設も管理者から丁寧な説明をいただき、建物の良さや特色などが十分に理解できました。特に信州大学繊維学部の講堂は装飾が見事で、折り上げ格天井やプロセニアムアーチ廻りの装飾は当時の職人の心意気を垣間見ることができた。これは今流行りの白一辺倒で装飾の無いシンプルな建物と対峙する建築もあり、そんな建物に見慣れた私の眼には新鮮で心躍るもの

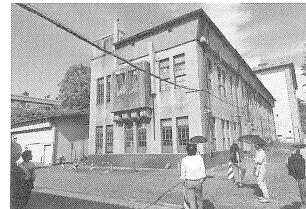
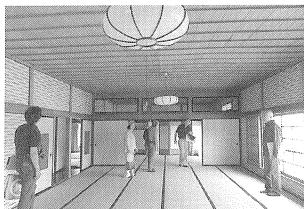
がありました。

見学途中に買い物帰りであろうご婦人に、何の団体かと声を掛けられ、概略を説明すると「上田にも誇れる建物があるのねえ」と嬉しそうに微笑んで路地へ姿を消して行きました。

建築物とは、迷惑建築になるものもあれば今回見学した建物のように市民の誇りとなる可能性も秘めています。

建築家は建物やそれを取り巻く空間に対して、創る責任の重さを認識し、流行りに惑わされることなく、時代を見据えた価値観を常に考え、設計に臨まなければ!

陽が西に傾く暑い日の路地裏で、このご婦人の後ろ姿を見送りながらそんなことを思いました。



上田情報ビジネス専門学校 「ものづくり講座」

勝山 敏雄

上田情報ビジネス専門学校のものづくり講座も今年で5年を迎え、多くの長野県クラブの会員の方々を講師として、講義を行ってきました。当初、学生にものづくりの楽しさをしってもらうために始まった雑学講座ですが、学生設計コンクールでの学生の作品を見させてもらうと、年々レベルが上がっており、このものづくり講座が少し、皆に刺激を与える場になっているように思えます。

今回の講座はアーキティック児野登さんの講義でした。前半は教室での講義、後半は児野さん設計の上田警察署の現場見学でした。(県の施設課の許可を得て特別に見学させていただきました。)講義のテーマは『建築の外延と建築に内包されるもの』でした。児野さんが設計に携わる中で、言葉にはなかなか表現できない内に秘める建築に対する思いや考えが伝わってきました。建築というカタチは、外から見る形であるが、それに内包された意味を問いただし、理解することが必要で、それを見出すことで本来の建築のカタチが生まれ、建築家が自己主張するものではなく、建築そのものが自己主張しなければならない。それはひとつの法則や手法などではなく、「歴史」「時代」「芸術」「様式」であつ

たり、「場」や「その土地」あるいは「思考」「思想」時には「機能」や「用途」等、いつもさまざまな視点で自分の中で取り組み、取り込んでいく。という内容でした。講義の後半は今までの作品をひとつひとつ説明してくださいました。

後半は上田警察署の現場見学でした。ちょうどこの日は最上階のコンクリート打ちで、その現場を見学させていただきました。配筋された型枠の中に生コンが送り込まれ、それぞれの立場の職人たちが手際よく、そして、きれいにコンクリートを打っていく様子を見ている学生を見ていると、のめり込むように目を輝かせていました。PC梁の様子も見られ、通常のRCでは見ることができない貴重な経験もしました。下階では内装工事が進められており、設備配管や電気配線、場所によってはボード張りの工事が進んでいました。普段完成された建物では決して見ることのできない建物の裏を見させていただきました。

今回のものづくり講座を通して、学生さんがまた一步成長してもらえばよいと思います。



夏のセミナー

7月28日(土)松本市 崖の湯 薬師平苗宿にて恒例の「夏のセミナー」が開かれました。

午前中に幹事会が開かれ、午後は第1部・賛助会の情報発信として、賛助会3社からの最新情報を紹介いただきました。

また。第2部では『川上から川下へ・地域材を考える』と題して、今年度発足した地域材活性化委員会委員を中心とした基調報告並びにパネルディスカッションが行われ、地域材利用などに関して活発な議論が交わされました。

賛助会からの情報発信

会員委員長になって初めての大仕事です。今まで不真面目な会員だったため、どのように進めていいのか分からず“何事も起こらずにただ時間が過ぎてくれればいいな”と暗い空気を漂わせながらの進行でした。

賛助会からは(有)E・C・O、長野三菱電機機器販売(株)長野支店、(株)角藤長野本部以上3社の協力により情報発信が行われました。

1番目は(有)E・C・Oからは廃タイヤを利用したゴムチップの床材の紹介、以前紹介した時より技術的にいろんな工夫がなされ、使用範囲がずいぶん広がったようです。ここ信州の冬は玄関先でころんで怪我をする例が多いですが、こんな事故も減らしてくれる材料として注目です。(足腰がだんだん自由に動かなくなっている他人事ではありません。)

2番目は三菱電機の工場から説明者がきていたいで情報発信でした。最近多くなったリフォームを中心とした空調の紹介で、長野県では一番のシェア

会員委員会委員長 長島 三夫

を持つメーカーならではの説明に、古くなったエアコンはこの際新しくしてしまおうと思った程。数年前と比べ効率も凄く進歩している事に驚かされた。(もう少し待てばもっとよくなり、価格も下がるような予感!)我が家はもう少し待つことにします。)

3番目は(株)角藤から地中熱を利用し熱源を取り入れる技術紹介でした。今、取り組まなければならない、原子力に代わるエネルギーのひとつです。自社では地中熱をすでに取り入れているそうです。是非、見学会をお願いして会員の理解を深めていただければと思っております。(モグラはいつも一定の温度の中で暮らしているのかな?)

このセミナーが会員の設計活動に少しでも役立てて頂ければ幸いです。これからも会員、賛助会員の希望や意見を頂戴し、設計する上で必要な情報、皆さんに伝えたい情報を探し出し有意義なセミナーになることを目指して冬のセミナーに備えたいと思います。

地域材活性化へ向けて

尾日向 辰文

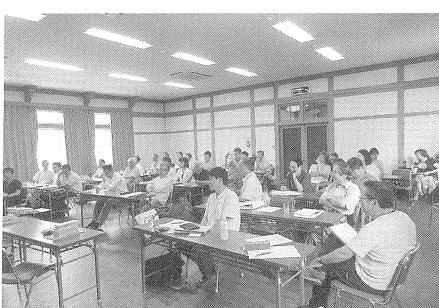
『川上から川下へ・地域材を考える』というテーマで地域材活性化委員会の新井委員長をコーディネーターに開催されました。前半は4人のパネラーによる基調報告、後半は自由な意見交換という2部構成でした。

基調報告は、県の県産材利用推進室吉川課長補佐から、森林が成長して蓄積量が年々増えているが成長量の2割しか使われていない現状、育てる時代から使う時代になったという話。根羽村森林組合の鈴木さんから、植林から製材加工、販売まで総合的に取り組む、根羽村トータル林業の話。矢沢建材の星川さんから、地域材に付加価値を加えた接着重ね梁や圧密材の話。下崎建築設計事務所の下崎さんから、自分の山の木で家を建てた施主の仕事をする中で、島崎山林塾の島崎さんと出会い、山の現状を知り、地域材に傾倒し

た話。「山がやばい」と言った真剣な表情が印象的でした。

意見交換は、会員がそれぞれに県産材の家を年3軒建てれば全員で200軒建てられる!と掲げた地域材活性化委員会の謳い文句に対して、限られた予算の中で外材に比べて値段の高い県産材を採用することが施主の利益になるのだろうか、という意見も出され、混迷しました。

会員それぞれ、地域材に対する関心の度合いや付き合い方が違います。私自身、明確な意志を持っていません。過日、根羽村と風の学舎を皮切りに始まった地域材フィールドワークなどを通じて考えを深め、川上と川下の渡し役になればと思います。



新人紹介



北村 浩康

今年度からJIA長野県クラブに入会させていただくことになりました、北村建築設計事務所の北村と申します。

郷里で建築の仕事に携わることを目標にして、6年前に松本市内に設計事務所を開設いたしました。大学卒業後、奈良市内の設計事務所にて多くの伝統建築に触れる機会を得、松本に戻ってからは川上会長のもとで民家再生の業務を通して、地域の建築のあり方を考えていまいりました。

今、子供の頃に愛着をもった信州の姿の多くは、残念ながら失われてしまいました。あらためて、地域性や地方性というものは、これまでの歩みの延長線上にしか存在しないことを強く感じています。また、地元に愛着を持つものが、ものづくりに関わる事こそが、地域性や地方性を現した信州の建築を生み出すことにつながるのではないかと思っています。

今後は、信州を愛する長野県クラブの諸先輩方との活動を通して、多くの事を学んで、長野県の建築家としての役割と責任を果たしていくべきと考えております。

どうぞよろしくお願ひいたします。



百瀬 万里子

大先輩の川上会長と安藤さんにご紹介いただいて、この度入会しました設計工房悠の百瀬と申します。7月から、少しずついろんな会に参加させていただいているのですが、皆様の意識の高さと情熱に圧倒されております。

昨年まで、長年老舗の設計事務所に一設計士として勤めて参りましたので、建築家協会に所属ということ自体、何となく恐れ多い気がしています。

地域材活性化委員会に入れていただきました。恥ずかしいことにそういう意識が今までとても低く、大変勉強になっております。根羽村のフィールドワークでは、建築家の協力のもと、こんなことを実現している自治体があるのだと驚きました。希望を持って、素朴にまっすぐに活動している姿が印象的でした。自分にも何か地域や地球の為にできることがあるかもしれない、ちょっとどきどきもしております。

皆様にご指導いただいたり、一緒に宣伝させていただきながらこれからの自分の価値観や方向、また社会に自分が出来ることをみつけてゆきたいと考えております。

よろしくお願ひいたします。

賛助会だより

安全で、清潔で、美しく、快適で、長持ちする床づくり

社会のあらゆる建物の床材とそれを使うソフトの開発を重ねて半世紀。その一貫したテーマは、人間の為の床づくりです。これまで、これからも、私たちは5つのスピリットを持つ「人の床」を提案していきます。

取扱品

ビニール系を中心とした床タイル/シート類

カーペットタイルを中心としたセンイ床材

巾木、接着剤、床手入れ剤などの関連商品

〒390-0832 松本市南松本1-13-14松本ノーサンビル3F TEL:0263-27-1841 FAX:0263-26-8390

美しい水を守る

弊社は美しい水を守る為、フジクリーンが目指すもの※の企業理念に基づき、1.低炭素社会を実現する商品開発、2.中水道システムの研究、3.単独浄化槽から合併浄化槽へと言う3つの取り組みを行っております。

具体的な営業種目として、小型・中型・大型浄化槽、高度処理浄化槽、産業廃水処理装置、農業集落排水処理装置、中水道システム、プロワ(送風機)があり、それぞれの商品とも自社で、開発、設計、製造、販売、施工を

〒390-1243 長野県松本市大字神林3308番地1 TEL:0263-27-2080 FAX:0263-27-2081

私たちちは環境保全活動に取り組み『環境調和企業』を目指します

私たちちはお客様に優れた品質で最高の満足を提供いたします。

株式会社タジマ信越営業所 宮本 順一

一貫体制について

時代のニーズに合った、優れた機能的床づくりを提供する為、タジマは研究、開発から製造、物流までを自社一貫体制で臨んでいます。又、ISO 9001を取得し、国際的な品質基準にも対応しています。

タジマは常に理想の床づくりを追求いたします。そして、安全で、清潔で、美しく、快適で、長持ちする床づくりを目指します。今後ともよろしくお願ひ申し上げます。

〒390-0832 松本市南松本1-13-14松本ノーサンビル3F TEL:0263-27-1841 FAX:0263-26-8390

私たちちは環境保全活動に取り組み『環境調和企業』を目指します

私たちちはお客様に優れた品質で最高の満足を提供いたします。

株式会社 松田 勝

一貫して行っております。また、製品の維持管理、水質分析・調査も行っております。

※私たちの使命は、子供たちが水まみれ泥まみれになって遊ぶことのできる、生物にあふれた小川や水辺を回復することです。そのために、人が使い汚してしまった水をその場できれいに再生する技術の開発に力を注ぎ、技術力、商品力で世界一を目指します。

〒390-1243 長野県松本市大字神林3308番地1 TEL:0263-27-2080 FAX:0263-27-2081

私たちちは環境保全活動に取り組み『環境調和企業』を目指します

私たちちはお客様に優れた品質で最高の満足を提供いたします。

株式会社 双葉 飯田営業所 有賀 通夫

私たち双葉は創業以来、あらゆる産業の基準器たる計測機器の販売と科学技術の発展と共に益々その重要度を加えている教育研究施設の開発・設計・施工を営業の主軸に、お客様が今何を求めているかを的確に判断し、徹底的な分析検討をもとにお客様にとって最適・最良な解決策をご提案・ご提供していくベスト・ソリューション・サプライヤーを目指して標準化した提案・提供でなくここにしかない、今しかないものを、お客様の多様

なニーズに合わせ、タイムリーにお届けして行くことです

システム創造型企業として、人・情報・環境の明日を見つめ、人間が持つ本来の創造性を最大限に発揮できる時間と空間を提供したい…それが私たち双葉の根底に脈打つポリシーです。つねにオリジナリティに溢れた、真のCS(顧客満足)を追求し、ご提供していきたいと考えています。宜しくご指導をお願いいたします。

【教育施設設備(黒板・収納家具・体育遊具施設・図書館)博物館・病院福祉施設機器等】

飯田営業所 飯田市上郷別府3361 TEL:0265-22-6787 本社 岡谷市天竜町3-4-8 TEL:0266-23-3108

県下唯一の日立グループ総合特約店です。

松田・南信株式会社 環境システム部 小林 勤

当社は、日立製作所の総合特約店として日立グループ全般の製品を取り扱う御売会社であると同時に、空調・給排水・衛生設備等の管工事や、エレベーター・エスカレーター等の機械器具設置工事と電気工事の建設業を営む設備会社です。日立グループの確かな技術力を背景にハイテクと自然が調和する空間の創造をめざして、各種設備やシステムの企画立案から設計施工、メンテナンスまで一貫したサービスをお客様にご提供できる様努力しています。特に精密工業や食品工業関連の工場におけるク

リーンルームの設備工事においては、当社の得意とする空調ユーティリティ設備技術や省エネ・低コスト化技術と日立の高品質な関連製品を余すところなく駆使して多くの施工実績を上げています。

平成19年に「松田産業株式会社」と「株式会社南信日立」が合併し社名を新たに発足してから、両者が長年培った営業・エンジニアリング・サービスを結集・強化してより地域に密着した地元企業として、お取引先様の真のパートナーになるべく、社員一同全力を挙げて邁進しています。

〒381-8539 長野市南長池古新田369-5 TEL:026-243-3222(代表)

はじめよう、炎のある暮らし

新入会員 有限会社ヤマショウ 代表:山口 長武 担当:藤澤 知旦

弊社は昭和48年にチェンソー等の林業機械の販売を柱に創業いたしました。その後、平成元年より薪ストーブの販売と取付工事を行っております。

寒さの厳しい信州での施工実績も2,000軒を超えて、今後もオリジナル部材の開発や、更に安全で安心な煙突施工を目指していきたいと思っております。

ご承知のとおり薪ストーブは再生可能で身近なバイオマスエネルギーを利用し、自然な空気の対流のみで動かせるシンプルな暖房です。

現在は上田と松本に拠点を置いて県下全域をカバーしていますので、アフターメンテナンスは勿論、林業関係機関との連携による薪の調達や配送も自社で賄い、ユーザー様の薪ストーブライフをバックアップしています。

特にストーブ先進国である欧米のストーブはクリーンバーン等の採用によって、より人と自然にやさしい暖房になったと言われています。

〒386-1101 上田市下之条203-3 TEL:0268-27-0324

■今後の行事予定

10月22日(月)… 第5回会員の集い

11月16日(金)… まち並みウォッチング

11月29日(木)～12月1日(土)… JIA建築家大会2012横浜

12月上旬 ……「信州の建築家とくる家+プラス 第9集」発刊

12月 8日(木) 冬のセミナー&忘年会(安曇野市 ほりで~ゆ)

第2回地域材フィールドワーク(上伊那・木曽地域)…10月下旬

■開催したイベント

7月28日(土)… 夏のセミナー&納涼会(松本市 崖の湯 茜宿)

8月30日(木)… 第1回 地域材フィールドワークin南信州

根羽の取り組み

8月30日(木)… 環境を考える夕べ(飯田市 風の学舎)



今年度上四半期における主な活動紹介を主軸に本号を編集させていただきました。夏のセミナーでは、地域材活性化委員会が今年発足したことから『川上から川下へ・地域材を考える』をテーマに県産木材の活用について様々な意見交換が行われ、本号でも大きく取り上げました。「県クラブ会員が一丸となって地域材活用を促す」という目標に向けての第一弾です。障害も少なくはありませんが、地道な活動を通じてお互いの理解を深め、少しづつでも前進していきたいものです。 下崎明久

皆様からの投稿をお待ちしております。誌面へのご意見もお寄せ下さい。

編集人／下崎明久 発行所／JIA長野県クラブ 長野市南長野妻科426-1 長野県建築士会館内 TEL:026-232-3897 FAX:026-232-5303

発行人／川上恵一

URL <http://www4.ocn.ne.jp/~jia-naga/> E-mail jia-naga@jeans.ocn.ne.jp